

羽村市が目指す生涯学習の姿について

第二次羽村市生涯学習基本計画では、羽村市生涯学習基本条例における基本理念を体现するため、羽村市が目指す生涯学習社会の姿を以下のとおりとして、推進していきます。

○羽村市が目指す生涯学習の姿（案）

人とつながる 豊かな心を育む 未来にひろがる はむらの学び

人とつながる

少子高齢化、核家族化、情報化等の社会状況の変化により、人間関係の希薄化、地域における地縁的なつながりの希薄化がいられています。こうした中、家庭や学校、社会、地域等における人と人とのつながりや循環型社会の構築の重要性が高まっています。

多様な市民が共に学び合い、学びを通じて人と人、人と地域がつながり、また、今の世代から次の世代へと学びがつながる生涯学習を目指します。

誰一人取り残さない、多様性、社会的包摂、おもいやり、共生、交流、コミュニケーション、知識の共有、地域で子どもを育てる環境、地域コミュニティ、地域の関わり、地域とつながる、多様な人と学び合う、循環型生涯学習（地域への還元）、子どもと大人の協働、子どもから高齢者まで、地域の人も学校も、障害の有無にかかわらず、インクルーシブ

豊かな心を育む

価値観が多様化する中で、市民一人ひとりが、自己実現を果たし、生きがいを持って、自分らしい豊かな人生を送ることができるようにすることが、生涯学習に求められています。

自らが自らを認める思い、他者を認める思いが育まれることで、多様な価値観を受け入れることのできる豊かな心が醸成されていきます。市民一人ひとりが様々な学習活動や社会参加活動などを通じて、楽しさを実感できるとともに、自己肯定感を高め、心の豊かさを育むことができる生涯学習を目指します。

自己肯定感、自己有用感、成功体験、悔しさからの学び、自分磨き、精神的な豊かさ、自己実現、時間的な余裕、自力、主体的、自尊感情、生きる力、安心して、情操を育む、学ぶ楽しさ、楽しく学ぶ心

未来にひろがる

近年の社会情勢は、ICTの活用が拡大し、DXによる劇的な変化も進んでいます。刻々と変わりゆく環境に対応するとともに、人生100年時代といわれる中、市民一人ひとりがその可能性を最大限に引き出し、自己実現をはかり、未来に夢を持って、多様で豊かな人生を送ることができるよう、誰もがあらゆる機会に学び続けることができる環境が求められます。

新しい技術や社会を背景にした学びの環境を整備し、市民一人ひとりがそれぞれの学びを実現できるようにするとともに、主体的な活動によりその学びが地域に大きく広がり、その地域で育ったヒトやモノが大きく羽ばたき、未来にひろがるような生涯学習を目指します。

学び続ける、学力向上、学び直し、ICT活用、新しい時代の学びの在り方、いつまでも学べる環境、人生100年時代、創造、チャレンジ、世界にひろがる、国際的、はじめの一步、SDGs、持続可能な社会、将来の夢、未来を見据えて、歴史に夢を馳せ、変化の時代に対応して、将来を切り開く、膨らむ心、未来に続く技術、多様な未来の姿

はむらの学び

学びは、地域での活動が舞台となります。地域を思う気持ちが「ふるさと意識」を醸成し、人がつながり、先人たちが築いてきた「我がまち」を22世紀を生きる今の子どもたちへつなぐ学びとなります。文化や伝統を継承しつつ、新たな文化を新たな伝統として開拓する学びを育てることも肝要です。

羽村に暮らす市民に羽村を故郷として強く感じてもらいたい、そして将来も住み続けてもらいたい、そうした故郷羽村を創っていこう、という思いを持ち、羽村市の生涯学習を推進します。

地域の子ども、地域で学ぶ、地縁形成、地域コミュニティ、地域との連携、ふるさと意識、故郷を愛する気持ち、戻ってこられる場所、地域の伝統・文化の継承、地域への循環型学習、学びのフィールドとしての地域、地域に密着した文化を教育や学習として肌で伝えていく、地域とともにあるコミュニティ・スクール

※ 内は、審議会委員から挙げられたキーワード、審議会での発言からのキーワード、またその他関連するようなキーワードを参考として記載しました。

前期基本計画の基本方針について（案）

「羽村市が目指す生涯学習の姿」を受けて、第二次羽村市生涯学習基本計画前期基本計画の基本方針を、以下のようにします。

○前期基本計画の基本方針（案）

【基本方針1 学びの活動をつなぐ仕組みを構築します。】

現在、日本では人口減少局面に入っており、羽村市もその例外ではありません。そのため地域の再活性化が必要とされており、その手段として生涯学習によるまちづくりを推進しています。地域の再活性化のためには、安心して心豊かな生活を送ることのできる地域づくりが必要であり、人と人、地域と人をつなぐ人材が重要な役割を果たします。

これまでの地域活動に加え、コミュニティ・スクールの取組みが始まっています。

また、新たな学びの希求や、自らが学んだことを地域に活かすなど、学び直しと学びの循環も地域づくりに必要です。

本計画では、さまざまな視点から、学びの活動を地域で活かしつなぐ仕組みづくりを推進していきます。

【基本方針2 新しい技術を活用し、豊かな学びを保障します。】

Society5.0の到来を受け、より高度なICT技術の活用が迫られています。新型コロナウイルス感染症への対応により、ハイブリッド・ラーニングが一層進むことが予想され、これまではなかった学びの姿が生まれています。

また、学校教育の分野では、「主体的・対話的で深い学び」が実践され、GIGAスクール構想のもと、児童・生徒一人に1台のPCが配置されており、学習環境の大きな転換が図られています。

本計画では、これらの変化をチャンスととらえ、市民一人ひとりが豊かな学びを得られるための施策を推進していきます。

【基本方針3 誰一人取り残さないための学びを根付かせます。】

未知の感染症や自然災害への対応が求められています。また、デジタルデバイドの解消も課題となっています。さらに、新たな視点での「障害者の生涯学習」が必要です。

社会が大きく変化する中で、人生100年時代を迎え、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会、包摂的な社会を創るため、多様な人々が共に学び合う場を実現することが重要です。

本計画では、誰一人取り残さないための学びを根付かせるため、さまざまな取組みを展開していきます。

第4回羽村市生涯学習審議会における委員発言のまとめ（発言順）

<古本会長>

- 誰一人取り残さない
 - ・自分で何かを受け取る力] 何か新しいものをみんながちゃんと学べるようにしていく
 - ・学び続ける力
- 社会人世代の学び直し
 - ・学び直しのシステム作り（社会人教育制度）

↓

いつでも 誰でも どこでも ⇒ 普遍的なもの
うまく全体で言うことができれば
…できる人とできない人が生じる状況は良くない

<川津副会長>

- 自分の考えをはっきり言えるような子ども達を育てていく
- 故郷を愛する思いのある子が大事→子ども達への教育（仕掛け）
- 「我がまち意識」の醸成＝「学び」

<中川委員>

- 町内会活動＝地域の伝統・文化の継承→地域の良さの認識

↓

体験により地域に密着した文化を教育、学習として肌で伝えていく

（会長コメント）

⇒地域や文化や地域の良さみたいなものを理解できるような生涯学習

<葛尾委員>

- 体験の中から何かを学んで、それが将来の社会の中で役に立つようなことにつながっていけば良い
- この地に生まれて良かった、故郷と思えるような地であって欲しい
- 町内会として「安心・安全」がキーワード
- 自身として「自ら」をキーワードとした
 - 自ら取り組めるような啓蒙の仕方が必要
 - 学習の中で学び取っていけるような生涯学習基本計画

<新谷委員>

- 平均寿命は、今の子ども達は100歳近くになる
- 学び続けるところは地域
- 学校にICT、一人一台のパソコン
- 「地域とともに」「コミュニティ・スクール」「地域の中にある学校」

(会長コメント)

⇒ICTやコミュニティ・スクールは現代的な課題であり、一方で長い人生の中でどう学んでいくかという議論

<田口委員>

- 特別支援学校の現状として
 - ・青年学級…卒業後の活動の場→現状の活動は衰退傾向
 - ・学校開放…障害者本人講座

ボランティア養成講座

※「障害者本人講座」：障害者（主に本人）を対象とし、障害者本人の自立と社会参加のための学習機会の提供を行う。

「ボランティア養成講座」：高校生以上を対象とし、障害者理解、ボランティア体験を通してのボランティア養成、地域や学校の支援活動につなげる人材育成を行う。

(事務局注・東京都生涯学習審議会資料(東京都教育委員会HP)より)

- 羽村特支の学び

- ・「生きる」「学ぶ」「働く」「暮らす」という視点での育て
 - ・趣味を作る
 - ・部活動
 - ・学び続ける力
- ・多様性の尊重が未浸透

(会長コメント)

⇒多様性は大きなポイント。学び続けると言っても色々な観点がある。SDGsなどの議論とも連動している。

<山田委員>

- 幼友達がいる
- 戻ってこられる場所がある＝故郷
- 人と人のつながりが故郷になるものの根本

(会長コメント)

⇒「つながり」というときに、横と横がつながっているということと、縦につながっていく、継承していくという意味での二種がある。

<勝原委員>

- 国際的・グローバル経済・英語教育⇒国際交流
 - DX（デジタルトランスフォーメーション）
 - ・組織形態・人間関係・働き方改革
 - 格差の拡大（誰一人取り残さないという観点）
 - ボランティア活動
（会長コメント）
- ⇒DXは汎用性が高い。

<高松委員>

- 事業継続（創業・スキルアップ支援）
 - 安心して暮らして学んでいけるような生涯学習
 - 子ども達が学ぶ上でのいろいろな知識
 - 大人になってもずっと羽村で学んでいける
（会長コメント）
- ⇒子どもは安心して育ててほしいという思いがある。安心・安全も意味が広い。我々の安全、高齢者の安全などいろいろな安全。今後の議論で活かしたい。

<河野委員>

- 集会の重要性・必要性
 - 子どものTV番組
（会長コメント）
- ⇒子どもと一緒に学ぶという視点

<成瀬委員>

- おい方への興味
 - 子どもと大人の協働
 - 体験
 - 楽しくみんなが学べる
（会長コメント）
- ⇒楽しみは学び続けるモチベーションを生む。

<中根委員>

○生涯スポーツ

- ・好きなこと→自分の活力→継続
- ・場の提供

○趣味=活力

○生涯活力

(会長コメント)

⇒スポーツを通じて巻き込む、つながるということであるが、フレイルの話にもつながり、安心・安全の問題とも関係してくるか。

<鈴木委員>

○誰も置き去りにしない社会

- ・命を守る
- ・生きることが幸せ

○地域の関わり

○子どもの自尊心

○出てくる人(出てこられる人)と出てこられない人

○差別の解消

(会長コメント)

⇒誰も置き去りにしないという問題意識が通底しており、そのための場をどう考えるのか。

<田島委員>

○「楽しく学び つながり 活かす 生涯学習」がベース

○前回の基本計画の反省点の改善

○時代変化に伴い新たに発生した環境変化などへの対策

- ・コロナ
- ・高齢化
- ・SDGs 等

○はじめの一步をどう踏み出すのか(踏み出させるか)

- ・大人世代の教育
- ・物理的、経済的な制約
- ・DXの活用=個々に最適な出口

(会長コメント)

⇒PDCAを回しつつ、現代的な課題をどう入れ込んでいくか。

<中条委員>

- 地域で子どもを育てる環境
- 取り残されることがない環境
- 成功体験・失敗体験⇒地域コミュニティ
(会長コメント)

⇒コミュニティは、ずっと通底しているもう一つの軸である。

<野口委員>

- 精神的な豊かさ
 - ・物質的な豊かさ
 - ・時間的な余裕
 - リカレント教育
 - 自力
 - 学力向上
 - ・家庭教育力、学校教育力の向上
- (会長コメント)

⇒生きるための力みたいなものをどう作っていくかということか。誰も取り残さないとい
う議論に関わってくる。

<堀委員>

- 自己肯定感を持てる環境づくり
- 新しい形での発信
- 世界につながる若者づくり
- 「ひらく」
(会長コメント)

○つながり、ひろがり、自己肯定感などの心の部分と、今の技術みたいなものをどう入れ込
んでいくか。

<澤野委員>

- 開かれてつながるような学びの機会の充実
- 格差、差別に対する思いやり
- 誰もが参加できる
 - ・インクルーシブな学び
 - ・多様な人と学びあう
- 多様性の尊重
- 楽しい学びの中で
- 変化に対応できる力
- 故郷・伝統・地域の文化の継承
- 地域子ども達をみんなで育みながら、つながり、つないでいく
- 今いる人達をつながりも大切にしながら、縦につないでいく学び
- 地域への還元
- 多世代の人達の10年後を考えた方向性